

【3-2】日常生活支え合い実践事業

こども園における地域の方との交流の場作り (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市 豊地区
実施主体 鯖江市ゆたかこども園
所在地 鯖江市上野田町2-9
代表者 園長 笹本憲子



平成23年度の事業概要

近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品や絵本を整備した。地域の高齢者や園児の祖父母を園に招待し、視聴覚教材を利用し一緒に遊びながら交流を深めた。

〈わらべ歌で遊ぼう〉

- ・地域のお年寄りや祖父母を招待し、視聴覚機器を活用し、伝承遊びやふれあい遊びをしたり、リズム体操をして体を動かしたりして一緒に遊んだ。

〈ふれあい遊びをしよう〉

- ・サツマイモの苗植えや収穫でお世話になった地域のお年寄りを招待して、園児の手作りの首飾りをプレゼントしたり、一緒にふれあい遊びをしたりして遊んだ。

現在の活動状況

〈概要〉

- ・地区公民館や地区子育て支援ネットワーク委員会、老人会等と連携して、子どもと地域民との交流事業を実施する。
- ・高齢者との関わりを主とした世代間交流の様子をおたより等通して保護者や地域住民に伝え交流事業の啓蒙を図る。

〈実施状況〉

- ・年間5～6回
- ・地域のお年寄りや祖父母を招待し、視聴覚機器を活用し、伝承遊びやふれあい遊びをしたり、リズム体操をして体を動かしたり、手作りおもちゃを作って遊んだりした。
- ・サツマイモの苗植えや収穫でお世話になった地域のお年寄りを招待して、サツマイモの蔓で作ったリースをプレゼントしたり、一緒にふれあい遊びをしたりして遊んだ。
- ・講師を呼んで、歌とふれあい遊び、伝承遊びを楽しむ機会も設けた。
- ・遊びや交流の様子をチャトル便やブログなどで紹介している。

事業の実績、成果

- ・約10～30名の地域のお年寄りと、60名以上の祖父母の参加があった。
- ・お年寄りと子どもの触れ合う姿が自然になってきた。また参加されたお年寄り同士の親交も深まってきているように思える。
- ・園児とその祖父母が、伝承遊びを共有できた。

工夫した点

- ・園にお年寄りが足を運んでくださったときは、少しの時間でもふれあう時間を持ち、交流できるよう心がけた。
- ・交流では、家庭でも祖父母と一緒に遊べるような伝承遊びを取り入れた。
- ・発達に合わせた内容と場所、時間など環境設定を工夫した。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

- ・地域や祖父母からの要望はあるが、園の行事とのかねあいから限界がある。
- ・サロン（老人会）の方は高齢で、園児の祖父母との間には年齢層に幅があり、一度に集まるには無理な部分もあった。活動（畑作業、リズム遊びなど）や時期によって、機会を分けると良かった。

今後の目標

- ・地元の老人クラブや公民館、子育てネットワーク委員会、民生委員など地域にかかわるネットワークの中で協力し合いながら、引き続き交流を行っていききたい。
- ・地域の方が園に来られたとき、子どもたちの方から、自然な挨拶ができるように育てていきたい。

団体からのメッセージ



こども園は、子どもから高齢者まで地域に住む者同士が、ふれあい、つながりを深めていくことのできる交流の場です。
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。